



# 名大トピックス

No.135 平成16年8月31日発行 名古屋大学総務企画部総務広報課 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel 052)789-2016  
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

## 法科大学院開設記念式典・講演会等が開催される

- 21世紀の社会を担う優れた法曹を養成 -



3年連続「21世紀COEプログラム」、2年連続「特色GP」に採択される(4~9頁)

### CONTENTS

・法科大学院開設記念式典・講演会等が開催される.....	2	・遺伝子実験施設が「Jr.サイエンス教室:遺伝子を見てみよう」を開催.....	18
・平成16年度「21世紀COEプログラム」に採択される.....	4	・博物館が装置開発室を一般公開.....	19
・平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択される.....	7	・農学国際教育協力研究センターが2004年度第3回オープンセミナーを開催.....	19
 研究フォーカス		・附属図書館が今年も「七夕飾り」を催す.....	20
・法律家の専門職技能を科学する 松浦 好治.....	10	・新任部局長等の紹介.....	20
・平野総長が全学教養科目「名大の歴史をたどる」で特別講義...	12	《総長の学内視察》3 大幸キャンパス.....	21
・名古屋大学・愛知県・名古屋市の共同事業が文部科学省の 防災研究成果普及事業に採択される.....	13	《総長の学内視察》4 陸別観測所.....	22
・大学院国際開発研究科が国際協力銀行と協力協定を締結...	14	キャンパスクローズアップ 3 IB 電子情報館.....	24
・大学院文学研究科が外部評価ピア・レビュー委員会を開催...	15	[ INFORMATION ]	
・名大病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会を開催...	16	・平成16年度名古屋大学職員創作美術展作品募集.....	26
・「ジェンダーを科学する」出版記念シンポジウムが開催される...	17	・イベント等の開催予定一覧.....	27
		・本学関係の新聞記事掲載一覧(平成16年7月分).....	29



## 法科大学院開設記念式典・講演会等が開催される - 21世紀の社会を担う優れた法曹を養成 -

法科大学院開設記念式典・講演会等が、7月10日(土)シンポジオンにおいて開催されました。

これは、本年4月の大学院法学研究科実務法曹養成専攻(法科大学院)の開設を記念して開催されたもので、文部科学省や法曹関係者など約150名が出席しました。

本学法科大学院は、中部日本の基幹大学として、国際的にも開かれた自由な共生社会を支えることができる豊かな感受性と人間性に裏打ちされ、幅広い教養と優れた法的専門能力を備えた法曹を養成することを教育の理念とし、「国際社会の中で積極的に活動することのできる法曹」、「企業法務に強い法曹」、「市民生活上の法律問題に関して専門知識を有する法曹」、「情報・IT技術に強い法曹」の養成を目指して設置されたもので、初年度の今年は、82名(男子50名、女子32名)が入学しました。

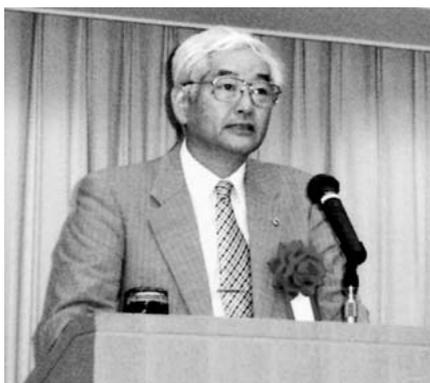
講演会では、大内捷司名古屋地方裁判所所長による「司法制度改革と裁判官の役割」、清水哲太トヨタホー



講演する清水トヨタホーム(株)代表取締役会長

ム(株)代表取締役会長・トヨタ自動車(株)相談役による「法科大学院に望むこと」と題した講演が行われました。

続いて、式典では、佐分法学研究科長の式辞の後、平野総長から「名古屋大学法科大学院は、従来の法学研究科及び法学部の伝統を受け継ぎながら、地域に深く根をおろし、卒業生のネットワークを広げ、そこか



講演する大内名古屋地方裁判所所長



式辞を述べる佐分法学研究科長



祝辞を述べる徳永審議官



祝辞を述べる関谷岐阜県バス協会  
会長



祝辞を述べる加藤最高裁判所司法  
研修所上席教官

ら栄養を得つつ、着実に、21世紀の社会を担う優れた法曹を育てることができると確信しています。」とあいさつがありました。次いで、徳永 保文部科学省大臣官房審議官、本学法学部出身の加藤新太郎最高裁判所司法研修所上席教官、小川宏嗣名古屋弁護士会会長、また、法学部同窓生を代表して関谷崇夫岐阜県バス協会会長から祝辞がそれぞれ述べられました。

祝賀会では、佐々木愛知県立大学学長（前本学副総長）の発声で乾杯し、和やかな雰囲気の中、法科大学院の開設を祝いました。

#### 法科大学院

平成16年4月に開校された「法曹（裁判官、検察官、弁護士の3者）養成に特化した教育を行うプロフェSSIONAL・スクール」のことです。修業年限は原則3年ですが、法学既修者については2年制の短縮コース（法学部出身者に限られるものではありませんが、短縮コースに入学するためには法律科目試験に合格する必要があります）が設けられています。また、法学部出身者だけでなく、他学部出身者や社会人にも幅広く門戸が開かれています。

法科大学院設置の理由としては、法曹人口の大幅増員に対応できる養成制度が必要になったこと、専門性を有した法曹の養成、司法試験という「点」のみによる選抜ではなく、法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成制度の必要性等が挙げられます。



祝辞を述べる小川名古屋弁護士会会長



会場の様子



# 平成16年度「21世紀 COE プログラム」に採択される - 本学の研究教育拠点14件に -

平成16年度「21世紀 COE プログラム」の審査結果が7月21日（水）公表され、本学からは「計算科学フロンティア」（拠点リーダー：金田行雄工学研究科教授）の1件が採択されました。本学は、これにより平成14年度採択の7件、15年度採択の6件と合わせて計14件の研究教育拠点を有することになりました。

21世紀 COE プログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野ごとに形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な若手研究者の育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的

としています。COE（センター・オブ・エクセレンス）は、「卓越した拠点」の意味です。平成14年度は、生命科学など5分野で50大学113件、平成15年度は、医学系など5分野で56大学133件が採択されました。

今年度は、日本学術振興会が今年3月に、新たな学術的分野の構築や進展が認められる研究教育領域や、その基盤が整備されている「革新的な学術分野」に対し、国公立大学から320件の申請を受け付け、21世紀 COE プログラム委員会（委員長：江崎玲於奈芝浦工業大学長）における審査を経て、24大学28件が選定されました。

## — 21世紀 COE プログラム採択拠点の概要

- 〔分野〕 革新的な学術分野
- 〔拠点プログラム名〕 計算科学フロンティア
- 〔拠点リーダー〕 金田行雄工学研究科教授
- 〔概要〕



現代の計算科学は、実験や理論の限界を超えて、超多自由度の系に対する計算を可能にしつつある。そして、高度コンピュータ利用の基盤技術をさらに推し進めることにより、様々な研究分野に計算科学フロンティアを生み出すと同時に、その共通基盤を確立することが強く求められている。本拠点はナノサイエンス、ゲノム科学、流体力学など広範な応用諸分野と、アルゴリズムやソフトコンピューティングなど基盤分野の研究者が融合・協力することにより、超多自由度系の現象、とくに従来、不確実な直感や想像に基づき経験的にしか扱えなかった複雑・多次元・非線形な現象や、現実の制約により実験や観測が不可能な現象を、より下位レベルの原理からシミュレーション世界を構築することによって解明する手法を確立する（非経験化）。このような非経験的計算科学手法の展開により、革新的学術分野を開拓するとともにその分野を担う若い研究者の育成を行う。

\*今年度採択された本学の21世紀 COE プログラム採択拠点の詳細については、次号に掲載しますので、ぜひご覧下さい。

## 21世紀 COE プログラム採択拠点一覧

平成16年度

分野	拠点プログラム名	拠点リーダー
革新的な学術分野	計算科学フロンティア	大学院工学研究科 教授 金田 行雄

平成15年度

分野	拠点プログラム名	拠点リーダー
医学系	神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成	大学院医学系研究科 教授 祖父江 元
数学・物理学・地球科学	宇宙と物質の起源：宇宙史の物理学的解読	大学院理学研究科 教授 福井 康雄
数学・物理学・地球科学	等式が生む数学の新概念	大学院多元数理科学研究科 教授 宇澤 達
数学・物理学・地球科学	太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学	地球水循環研究センター 教授 安成 哲三
機械・土木・建築・その他工学	情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス	大学院工学研究科 教授 三矢 保永
学際・複合・新領域	同位体が拓く未来 同位体科学の基盤から応用まで	大学院工学研究科 教授 山本 一良

平成14年度

分野	拠点プログラム名	拠点リーダー
生命科学	システム生命科学：分子シグナル系の統合	大学院理学研究科 教授 町田 泰則
生命科学	新世紀の食を担う植物バイオサイエンス	大学院生命農学研究科 教授 水野 猛
化学・材料科学	物質科学の拠点形成：分子機能の解明と創造	物質科学国際研究センター 教授 関 一彦
化学・材料科学	自然に学ぶ材料プロセッシングの創成	大学院工学研究科 教授 浅井 滋生
情報・電気・電子	先端プラズマ科学が拓くナノ情報デバイス	大学院工学研究科 教授 菅井 秀郎
情報・電気・電子	社会情報基盤のための音声映像の知的統合	大学院情報科学研究科 教授 末永 康仁
人文科学	統合テキスト科学の構築	大学院文学研究科 教授 佐藤 彰一

## 大学別の21世紀 COE プログラム採択件数

(平成14年度、平成15年度、平成16年度合計)

件数	大 学
28	東京大学
23	京都大学
15	大阪大学
14	名古屋大学
13	東北大学
12	北海道大学、東京工業大学、慶応義塾大学
9	九州大学、早稲田大学
7	神戸大学
5	広島大学
4	筑波大学、千葉大学、一橋大学、立命館大学
3	大阪市立大学
2	群馬大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京農工大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、長岡技術科学大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、鳥取大学、岡山大学、徳島大学、長崎大学、熊本大学、東京都立大学、兵庫県立大学、日本大学、同志社大学、近畿大学
1	帯広畜産大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、電気通信大学、政策研究大学院大学、新潟大学、富山医科薬科大学、福井大学、山梨大学、信州大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋工業大学、奈良女子大学、愛媛大学、九州工業大学、佐賀大学、宮崎大学、琉球大学、横浜市立大学、静岡県立大学、大阪府立大学、自治医科大学、青山学院大学、北里大学、国学院大学、国際基督教大学、順天堂大学、上智大学、聖路加看護大学、玉川大学、中央大学、東海大学、東京女子医科大学、東京電機大学、東京理科大学、東洋大学、二松学舎大学、法政大学、神奈川大学、東京工芸大学、愛知大学、藤田保健衛生大学、日本福祉大学、名城大学、京都薬科大学、関西医科大学、関西学院大学、高知工科大学、九州産業大学、久留米大学



## 平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択される - 本学は2年連続の採択 -

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)の審査結果が7月30日(金)公表され、本学が応募した「教員の自発的な授業改善の促進・支援 - 授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成 -」(取組部局:高等教育研究センター)が採択されました。本学は、昨年度の「創成型工学教育支援プログラム」(取組部局:工学部・大学院工学研究科)に続き、2年連続で特色GPに採択されたこととなります。

特色ある大学教育支援プログラムは、大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供することで、今後の高等教育の改善に活用します。これにより、国公立大学を通じ、教育改善の取組について、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進さ

れることを目的とするものです。また、総合的取組、教育課程の工夫改善、教育方法の工夫改善、学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善、大学と地域・社会との連携の工夫改善の5つのテーマのうちから学長を中心とするマネジメント体制の下で実施され、かつ、実績ある取組を申請することになっています。選考は、(財)大学基準協会を中心に運営される「特色ある大学教育支援プログラム実施委員会」(委員長:絹川正吉前国際基督教大学長)において実施されます。特色GPは、「グッド・プラクティス」の略で、優れた実践を意味します。平成15年度は応募総数664件に対して80件(採択率約12.0%)でした。

今年度は応募総数534件に対して58件(採択率約10.9%)が採択され、また、2年連続で採択されたのは、本学を含め12校でした。

### 「特色ある大学教育支援プログラム」採択一覧

採択年度	取組名称	申請単位	申請担当者	取組部局
平成15年度	創成型工学教育支援プログラム	学部単位	平野 真一	工学部・大学院工学研究科
平成16年度	教員の自発的な授業改善の促進・支援 - 授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成 -	大学全体	黒田光太郎	高等教育研究センター

## 「特色ある大学教育支援プログラム」の概要

〔テーマ〕 主として教育方法の工夫改善に関するテーマ

〔取組名称〕 教員の自発的な授業改善の促進・支援

〔申請単位〕 大学全体

〔申請担当者〕 黒田光太郎高等教育研究センター長

〔概要〕

本取組は、大学教員の自発的な授業改善の促進・支援を目的に、授業改善のための方法論を開発し、その具体的な実践手段を教員ひとりひとりに提供する活動です。

授業改善のなかで本取組が重視しているのは「授業デザイン力」です。これは、授業を成功に導くための設計・戦略であり、シラバス設計、教授法、成績評価等のスキルからなります。とりわけ重要なシラバス設計スキルとは、授業目標、授業計画、授業時間内外の課題を設定する能力を意味します。こうしたスキルの全体、つまり授業デザイン力の形成を通じて授業改善の実現をめざしています。

本取組は3つの柱から成り立っています。第1は、授業デザイン力形成の中心手段は『成長するティップス先生』（<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>）です。これは、授業改善のヒント・ノウハウを提供するものです。第2に、その実践手段として、「ゴーイングシラバス」(ウェブ上でシラバス作成を行い、併せてその作成能力の習得・向上を図る)を開発するとともに、全学での活用を進めてきました。第3として、これら2つの柱とあわせて、全学的FD研修(授業改善ノウハウの伝達等)を実施してきました。以上の3つの取組を通じて、教員が自発的にかつ無理なく授業改善を行えるよう支援してきました。



『成長するティップス先生』  
 ( <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/> )  
 ( このホームページへは、名古屋大学ホームページ  
 研究・教育 教育支援情報から行くことができます。 )

\* 今年度採択された本学の「特色ある大学教育支援プログラム」の詳細については、次号に掲載しますので、ぜひご覧下さい。

平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」採択大学・短期大学一覧表

大学

設置	大学名	テーマ番号
国立	北海道大学	1
	群馬大学	2
	東京外国語大学	4
	一橋大学	5
	信州大学	1
	岐阜大学	5
	静岡大学	1
	名古屋大学	3
	三重大学	3
	京都大学	3
	大阪大学	2
	岡山大学	3
	広島大学	4
	山口大学	2
	愛媛大学	4
	福岡教育大学	2
	長崎大学	5
	熊本大学	2
公立	岩手県立大学	1
	茨城県立医療大学	1
	宮崎県立看護大学	1
私立	北星学園大学	2
	共立薬科大学	5
	慶應義塾大学	2
	工学院大学	5
	中央大学	2
	津田塾大学	2
	東海大学	2
	東京医科大学	3
	女子美術大学	5
	目白大学	2
	南山大学	1
	名城大学	2
	京都精華大学	3
	同志社大学	4
	佛教大学	3
	大阪産業大学	5
	大阪商業大学	5
	関西国際大学	4
	帝塚山大学	3
	高知工科大学	2

短期大学

設置	短期大学名	テーマ番号
国立	高岡短期大学	3
	新見公立短期大学	5
公立	大分県立芸術文化短期大学	5
	北海道浅井学園大学短期大学部	2
私立	山形短期大学	2
	国際学院埼玉短期大学	1
	産能短期大学	4
	上智短期大学	5
	湘北短期大学	3
	金城大学短期大学部	2
	藤田保健衛生大学短期大学	1
	京都外国語短期大学	4
	久留米信愛女学院短期大学	5
	鹿児島純心女子短期大学	3

共同の取組

大学・短期大学名	テーマ番号
北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、大阪大学、九州大学	1
大阪大学、上智大学	1
京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都府立医科大学医療技術短期大学部、大谷大学、大谷大学短期大学部、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都学園大学、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都女子大学、京都女子大学短期大学部、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都橘女子大学、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学、京都文教短期大学、京都薬科大学、種智院大学、成安造形大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、佛教大学、平安女学院大学、平安女学院大学短期大学部、明治鍼灸大学、立命館大学、龍谷大学、龍谷大学短期大学部、池坊短期大学、華頂短期大学、京都経済短期大学、聖母女学院短期大学、京都西山短期大学（西山短期大学）、大阪成蹊大学芸術学部	2

- 【テーマ番号】
1. 主として総合的取組に関するテーマ
  2. 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ
  3. 主として教育方法の工夫改善に関するテーマ
  4. 主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ
  5. 主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ



# 法律家の専門職技能を科学する

松浦好治

科学研究費学術創成研究費「コンピュータ・ネットワークを用いた法学教育の実践・評価システムの創成」（平成14年 - 17年）による研究内容をご紹介します。

法曹（裁判官、弁護士、検察官）の養成を目的とする専門職大学院として、法科大学院が平成16年度に発足しました。法科大学院の教育は、医学教育と同様、専門的な知識と専門的な技能の両方を統合するものでなければなりません。

しかし、これまでの大学の法学教育は、法的な専門知識を教えるという面を重視してきたため、その知識を事件の処理のためにどのように活用するのかという専門技能の訓練面は、ほとんど対象としてきませんでした。大学の外の法律実務の世界でも、事件処理という実務面が重視され、実務訓練は働きながら学ぶ（い

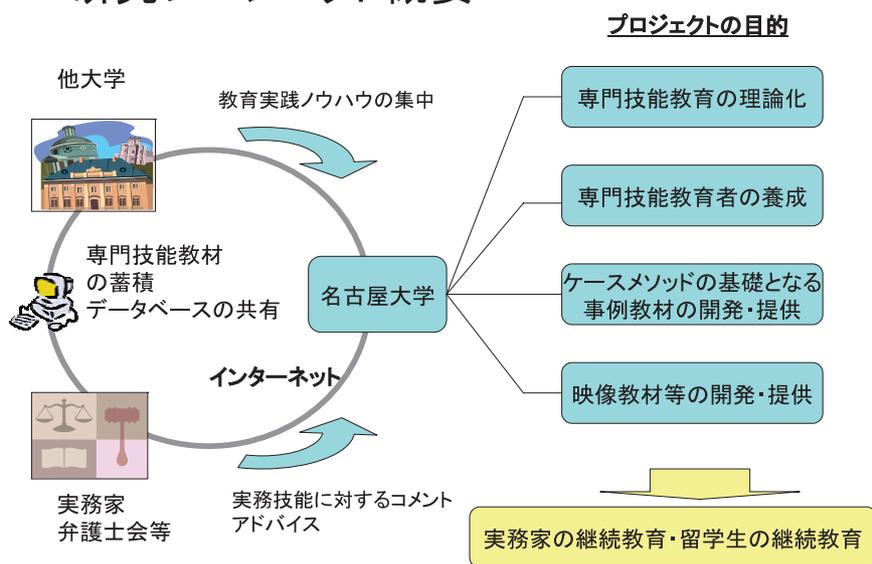
わゆる on the job training）形になっていたため、技能を分析し、理論化し、体系付けるという研究は十分行われてきませんでした。この研究プロジェクトは、それを中心テーマとしてとりあげています。

研究の方法は、技能が使われる場をビデオで記録、解析、理論化を中心としています。さらに研究成果を法科大学院の教育現場で実際に使って、その有効性を検証し、そのデータを研究に還元するプロセスも組み込んでいます。

研究の一つの大きな特徴は、インターネットを媒介にして内外の壁を取り払い、大学の外の法曹や他大学の専門家を研究教育の現場に動員するシステムの開発を含んでいるところにあります。

その研究構想の全体は、次の図を参照してください。

## 研究プロジェクト概要



たとえば、法科大学院で、法廷で証人調べをする技能訓練をします。すると、学生は、証人から何をどのように聞き取るかに関する計画を立てなければなりません。

専門職になろうという人の訓練ですから、全員が知識と技能を使う訓練機会が必要です。そこで、この研究プロジェクトでは、学生全員に証人調べの計画書の提出を求めるウェブ上のシステムを開発しました。学生の計画書は、すべて匿名にされた上で共有され、誰でも見て評価し、参考にすることができます。提出された計画書は、全員あるいは専門家の投票によって評価され、優れた計画書が選ばれます。優れた計画書についても、さらに改善すべき点についてのコメントが教員、学生だけでなく、外部の法曹からもウェブ経由で提供されます。

証人調べの様子は、ビデオ収録されます。法廷教室には、複数のカメラがあり、発言者だけでなく、裁判官、相手方弁護士、傍聴人席なども同時にビデオ収録します。それは、その場の状況全体を意識することが法曹の訓練にとって重要だからです。熱心に証人から聞き取りをする弁護士と居眠りしている裁判官がビデオに映し出されれば、メッセージは明らかです。

収録されたビデオには、自由に印（インデックス）をつけ、コメントを付け、その場所からすぐに再生することができるシステムが組み込まれています。付されたコメントは、見せたり隠したりすることが可能です。

ところで、専門家のコメントは、「実務はどうするのがいいのか」という理論を暗黙に前提しています。この研究プロジェクトは、この暗黙に前提されている理論をコメントその他のデータから洗い出し、その理論の有効性を正面から検証しようとしています。

収録された優れた技能訓練ビデオは、インターネット上で他大学や法曹専門団体と共有することが可能です。証人調べだけでなく、弁論、示談交渉、法律相談などさまざまな専門技能の訓練ビデオが利用できるようになれば、それは、法科大学院の教育だけでなく、

法曹の高度の継続訓練にも活用することができます。

この研究プロジェクトは、このような共同利用の枠組み自体の開発も進めています。さらに、計画書や法律文書を評価し、推敲するためのソフトウェアやシラバスシステム、大学を結んだ法科大学院教材コンテンツ開発の基盤システム開発も進んでいます。それは、各法科大学院がローカルなスタンダードではなく、ナショナル・スタンダードに沿った教育をすることが重要であるという観点に立って、この研究プロジェクトがナショナル・スタンダードを自然と生み出す環境を提供しようとしているからです。

## プロフィール

まつうら よしはる



昭和23年生まれ。大阪大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。昭和51年中京大学法学部講師、同助教授、大阪大学法学部助教授を経て、平成3年大阪大学法学部教授。平成11年大阪大学大学院法学研究科教授。平成12年名古屋大学大学院法学研究科教授、法政国際教育協力研究センター教授を経て、平成16年より名古屋大学大学院法学研究科教授。専門は、法情報論・法思想史。情報科学のハード面、ソフト面の成果を法学の教育・研究に生かすための基礎理論の研究をしています。研究は、英米の19世紀の法理学や法思想史から始めましたが、その後、法と経済学や法情報学といった生成途中の領域にも関心を広げました。法的な思考方法や分析方法をどの程度コンピュータに乗せることができるかとか、法思想や社会思想の研究を技術革新する方法はないのかとか、さらには、法的な知識の構造の解明などが最近の関心対象です。

次号からしばらくの間、「研究ナウ」を二本立てにして、文系の研究分野を特集します。ご期待下さい。



## 平野総長が全学教養科目 「名大の歴史をたどる」で特別講義

平野総長は、7月6日(火)、全学教養科目「名大の歴史をたどる」において、約120名の学生を前に特別講義を行いました。

「名大の歴史をたどる」は、毎年、大学文書資料室が前期に開講している講義で、全体が総説編(前身校からの通史的な講義)と各説編(名大史ブックレット等を使ったテーマ別講義)の2部構成になっています。今回の総長講義は、各説編の1コマとして、「名古屋大学の法人化と展開」をテーマにしたもので、学生は約1時間の講義に熱心に耳を傾けていました。

講義の中で平野総長は、「自分の人生という畑に責任を持って種を蒔いて欲しい。そして、それを育てて欲しい。大学では、漫然と過ごしては何も得ることはない。自分から進んで積極的に取り組んで欲しい。」と語って学生を激励しました。

講義終了後に受講生が書いた「感想文」からは、日頃は間近に見る機会が少ない総長から直接に語りかけてもらったという感動とともに、受講生を意識した分かりやすい講義の内容に少なからぬ刺激を受けた様子が読み取れます。

今回の総長講義の実施については、今年4月中旬に平野総長と加藤大学文書資料室長が会談した際に話題に上り、「講演会ではなく講義として行いたい」という総長の希望に応える形で教養教育院等の協力を得て実現したものです。この総長講義には、テレビ局2社と新聞社3社による取材が行われ、各社ともその様子を報道しました。

なお、大学文書資料室では、教養教育院と協力しながら、今回の総長講義の記録冊子の作成を予定しています。



講義をする平野総長



総長の講義に熱心に耳を傾ける受講生



# 名古屋大学・愛知県・名古屋市の共同事業が 文部科学省の防災研究成果普及事業に採択される

本学が愛知県・名古屋市と共同提案した「行政・住民のための地域ハザード受容最適化モデル創出事業」が、文部科学省の平成16年度「防災研究成果普及事業」に採択されました。

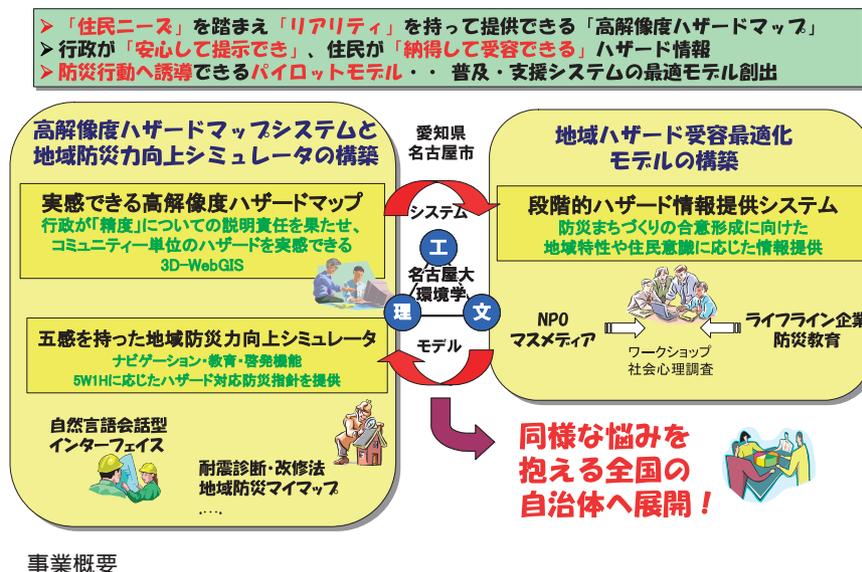
この事業は、文部科学省が今年度から新たに、大学における防災研究成果を地域の防災対策に繋げるためのパイロットモデルを実施することにし、具体的な提案を公募していたもので、全国で2事業が採択されました。

採択された事業は、本学と愛知県・名古屋市が一致協力して当地の防災力向上に取り組もうとするもので、大学院環境学研究科が推進してきた文理融合型の「安全安心プロジェクト」や地域貢献特別支援事業「中京圏地震防災ホームドクター計画」の延長線上にあります。本学の研究者・自治体職員に加え、中部電力と東邦ガス、NPO 法人レスキューストックヤードとNPO 愛知ネット、NHK 名古屋放送局、応用地質(株)と(株)ファルコンの技術者が集まって、「あいち地域防災力向上協議会 ATTACK( Aichi Total Activity for Co-ope-

rative disaster mitigation-Kyogikai )」を設置し、産学・行政・住民の協働の下、地域防災力向上のための事業を推進します。

東海地震や東南海地震のような大規模広域災害では、行政主導のトップダウン型防災には限界があり、地域に根ざした住民主導の防災行動の活性化が不可欠です。本事業では、防災まちづくりに向けた環境整備として、防災行動のモチベーションを高めるため、行政が「安心して提供でき」、住民が「納得して受容できる」ハザード情報提供システムの開発を行います。

具体的には、行政・住民が防災行動を協働して実践する基盤として、既存の先端研究成果に基づいて高解像度ハザードマップを作り、地域防災力点検シミュレータを開発するとともに、これが住民に最適に受容されて、防災力の向上を確実に進められる情報提供モデルを構築します。このために、理学・工学・地理学・社会学・心理学の研究者の有機的な連携に基づいて、防災力向上を構成する「ヒト・コト・モノ」の三位一体の研究を推進する予定です。



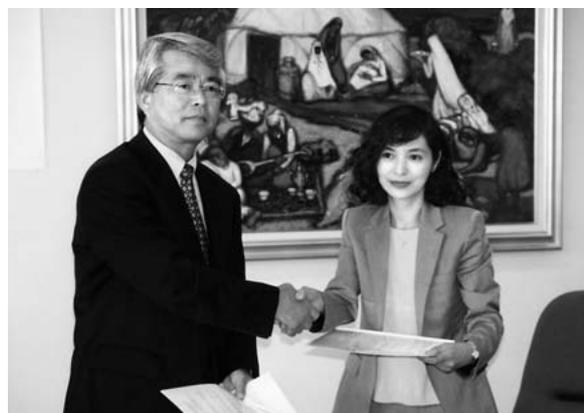


## 大学院国際開発研究科が 国際協力銀行と協力協定を締結

大学院国際開発研究科は、7月16日（金）中西研究科長と荒川国際協力銀行開発業務部長が協力協定書に署名し、同協定を締結しました。

協力協定は、政府開発援助の円借款業務を行っている国際協力銀行の事業を実施するうえで協力しあうことを確認しています。協定は、研究・調査への協力、国際開発研究科の大学院生の国際協力銀行でのインターンシップ制度、途上国からの大学院生の受け入れなどを骨子としています。協定の意義は以下の2つに集約されると思われます。

第一に、途上国への開発協力分野での人材育成において蓄積した開発援助に関する知見を、総合的な組織力で提供する機会が増えるという点です。本研究科は、経済・社会開発、ガバナンス、地方行政、開発法学などの専門家集団です。したがって、たとえば、インドネシアなど各国の地方分権化に必要な行政官育成、カンボディアでの高等教育拡充のためのカリキュラム開発や教師教育、中国での森林事業などすでに国際協力銀行が実施したプロジェクトのインパクト評価など、幅広い分野で体系的な開発援助戦略に貢献したいと思



協力協定書締結後、握手を交わす中西研究科長（右）と荒川国際協力銀行開発業務部長（左）

います。

第二に、途上国の人材育成がさらに多角的に実現できる点であります。円借款を通じての途上国に対する開発援助事業に本研究科が参画するには、教員のみならず大学院生の参加も伴います。本研究科の半数を占める大学院生のなかにはアジアからの院生が多く、事業の実施対象国出身の院生と日本人の院生の両方が参加することで、日本とアジアの両方の知見を互いに学び合いながら、国際貢献と地域貢献を双方向的に実施できる意義は大きく、国際協力銀行の国内および海外事務所にインターンとして派遣することも、大学院生が本研究科で学問的に得た知識のうえに実務経験を身につける絶好のチャンスとなることはいままでのことです。

これを機会に、本研究科から提案型の事業を提案し、その実施が教員の研究さらに大学院生への教育にはねかえるようなシステムができれば最高だと考えています。

（本記事は、中西国際開発研究科長に執筆いただいたものです。）



協力協定書に署名する中西研究科長（中央）と荒川国際協力銀行開発業務部長（左）



## 大学院文学研究科が 外部評価ピア・レビュー委員会を開催

大学院文学研究科は、7月20日(火)、外部評価ピア・レビュー委員会を開催しました。

この外部評価は、大学院文学研究科を構成する19研究室のうち、平成13年度に6研究室に実施されており、今回は、比較人文学、中国哲学、中国文学、日本史学、日本語学、フランス文学、英語学の7研究室を対象として、各分野の専門家7名に評価委員を依頼し、実施されました。なお、残りの6研究室は、平成19年度に評価を受けることになっています。

評価委員には、各研究室が作成した「研究室スタッフ個人資料」、「研究室資料(研究室の歴史と教育研究方針・教育・研究)」及びそれに関連する資料を事前に配布し、同研究科の現状について十分な認識を持ってもらった上で、委員会に出席していただきました。

当日、評価委員は、同研究科の諸施設及び各研究室を視察し、各研究室において、学部学生、大学院学生へのインタビューを行い、種々の意見交換を行いました。その後、名古屋市内のホテルに会場を移して、全体会議が行われ、最初に、評価委員の互選で加藤委員を委員長として選出しました。加藤委員長の司会進行のもと、各評価委員から、担当研究室について、全体的なコメントをいただき、法人化による予算削減への対応や教員数等への指摘や提言がなされました。教員数が少なく規模としては小さいながらも研究や教育については、高い評価を受けました。続いて、各研究室のスタッフから、評価委員の指摘や提言に対して、現状の見直し、今後の研究室としてどうあるべきか等の発言があり、活発な質疑応答が行われました。

なお、今回の評価は、報告書としてまとめ、公表することになっています。

文学研究科外部評価ピア・レビュー委員会委員  
(比較人文学担当)

荒木美智雄 国士舘大学21世紀アジア学部教授・筑波大学名誉教授  
(中国哲学担当)

湯浅 邦弘 大阪大学大学院文学研究科教授  
(中国文学担当)

須藤 洋一 北海道大学大学院文学研究科教授  
(日本史学担当)

五味 文彦 東京大学大学院人文社会系研究科教授  
(日本語学担当)

加藤 正信 東北大学名誉教授(委員長)  
(フランス文学担当)

柏木 隆雄 大阪大学大学院文学研究科教授  
(英語学担当)

鈴木 英一 筑波大学人文社会科学研究科教授



外部評価ピア・レビュー委員会全体会議の様子



## 名大病院・関連病院卒後臨床研修 ネットワーク総会を開催

平成16年度名大病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会（名大卒研ネットワーク総会）が、7月3日（土）名古屋市公会堂で開催されました。

この総会は、医学部附属病院関係者、関連病院の院長及び研修担当者、研修を希望する学生等が一堂に会し、臨床研修内容の向上、研修病院情報の提供、研修病院決定のためのサポート等の諸点について、基本方針の決定と活動スケジュールを明らかにするために行われています。また、総会に引き続いて行われる「Meet The Director」は、学生が研修に関する情報、夏休み中の見学や実習案内などを研修病院から直接収集できるように、名大卒研ネットの全面的な支援のもと、本学医学部6年生が中心になって企画運営されているもので、学生及び関連病院の双方から好評を得ています。

今回は、今年度からの2年間の医師の卒後臨床研修の必修化に伴い、研修病院の決定は、コンピューターによる全国マッチング方式がとられ、研修医の大幅な流動化が表面化している状況の中で行われ、研修希望者（医学部6年生）が本学と他大学合わせてネットワー

ク登録者343名（当日登録者31名を含む）中302名、これに関連病院関係者122名、本学関係者（医学部5年生のスタッフを含む）を含めて約500名が参加しました。

第一部の総会では、井口ネットワーク代表（医学部附属病院長）、杉浦医学部長、鈴木学生卒研代表のあいさつの後、来賓の石野文部科学省高等教育局医学教育課長及び井上厚生労働省医政局課長補佐から、学生への励ましと同ネットワークへの賞賛のあいさつがありました。続いて、松尾卒後臨床研修センター長から、平成17年度研修に向けたネットワークの行事予定と研修病院決定方法について（マッチングスケジュール等）及びネットワーク規約と基本方針について確認があり、その後、役員選出が行われました。

第二部のMeet The Directorでは、グループ形式で前半・後半の2回病院ごとにプレゼンテーションを行い、その後、ブース形式で学生が希望の病院を選んで直接担当者に質問を行いました。今年は、目的の会場整理券を手にするため、整理券発行の1時間前から学生が整列を始め、発行時には長蛇の列が出来ていました。真剣に研修病院の情報収集に取り組む学生の姿も多く見られ、直接病院の関係者と話しができたと好評でした。また、石野医学教育課長からも「名大の学生を巻き込んだ先進的な方法が定着していることがよくわかりました。」との感想が述べられました。



あいさつする石野文部科学省高等教育局医学教育課長



## 「ジェンダーを科学する」出版記念シンポジウムが開催される - 大学でジェンダーとはなにかを学ぶ意義 -

男女共同参画推進専門委員会及び男女共同参画室は、7月8日（木）文系総合館カンファレンスホールにおいて、『ジェンダーを科学する 男女共同参画社会を実現するために』（ナカニシヤ出版）出版記念シンポジウム「大学でジェンダーとはなにかを学ぶ意義」を開催しました。

この教科書は、本年度の男女共同参画活動の一環として開講された全学教養科目「女と男を科学する」（前期火曜2限開講、2年生対象。現在、約80名の学生が参加）に使用するため、本学の教員13名によって執筆されたもので、第1部は「ジェンダー論入門」、第2部は「学術とジェンダー」と題して、生物学、医学、心理学、文学、法学等の分野で、ジェンダーがどのように扱われてきたかを分野別に取り上げています。

シンポジウムでは、男女共同参画担当の森理事のあいさつの後、パネリストのフレンチ・フェミニズム研究者・棚沢直子東洋大学教授、社会心理学者・森永康子神戸女学院大学助教授から発表がありました。続いて、



シンポジウムの様子

学内から、全学教養科目「女と男を科学する」の受講生代表として川田智美さん、講義担当者代表として金井男女共同参画室長がそれぞれの立場から発表しました。

当日は、約60名の参加があり、参加者から高い問題意識の発言が相次ぎ、大変興味深いシンポジウムとなりました。

なお、このシンポジウムの記録は、男女共同参画室のホームページ（<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>）に掲載されています。



『ジェンダーを科学する - 男女共同参画社会を実現するために - 』



## 遺伝子実験施設が 「Jr.サイエンス教室:遺伝子を見てみよう」を開催

遺伝子実験施設は、7月17日(土)の午後、名古屋市とその周辺に在住の小中学生とその父兄を対象に、「Jr.サイエンス教室:遺伝子を見てみよう」を開催しました。

この教室は、子供たちがDNAや細胞に触れる機会をつくり、その中から科学する心や、遺伝学・バイオサイエンスなどに対する関心を育ててもらおうという趣旨で行われているもので、今年で3回目になります。今回は、名古屋市内外の13の小中学校から21名の小中学生と15名の父兄の計36名が参加し、賑やかな教室となりました。

実験は、二人一組で進められ、参加者は、まず、遺伝子実験施設の職員から遺伝やDNAに関する簡単な説明を受けた後、顕微鏡で、タマネギの表皮細胞や根端細胞などを観察しました。参加者の大部分が、実際に核や染色体を見るのは初めてで、顕微鏡を覗くのが楽しくてたまらない様子でした。

続いて、プロッコリーから実際にDNAを抽出するという困難な実験に挑みました。慣れない手つきで野



野菜からDNAを抽出する参加者

菜を磨りつぶし、そこに試薬を加えます。小一時間の作業の後、エタノールを注いだ試験管の中からDNAの白い繊維が現れると、ここかしこで歓声が上がりました。全員がDNAの抽出に成功して、実験は無事終了しました。

修了式では、石浦遺伝子実験施設長から、参加者一人一人に修了証書と記念品が手渡されました。



顕微鏡を覗き込む参加者



修了式での記念撮影

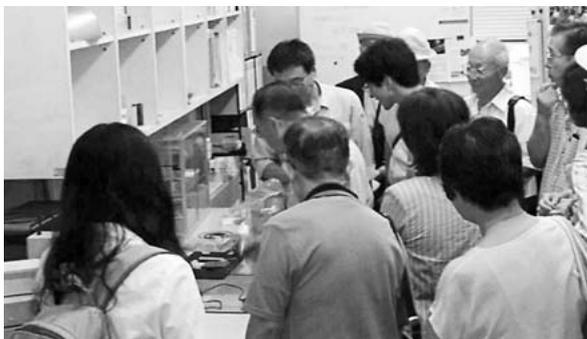


## 博物館が装置開発室を一般公開

博物館は、第7回特別展「名古屋大学の研究・教育を支えた匠の技」に関連して、6月23日（水）、理学部の装置開発室を一般公開しました。

これは、今回の特別展で紹介している実験装置などの制作現場を、一般の人にも実際に見学してもらい、「匠の技」の素晴らしさを感じ取ってもらうことを目的として行われたもので、当日は、学外から約20名が参加しました。

見学会では、増田忠志全学技術センター技術課長をはじめ、鳥居、鈴木、松下の装置開発室スタッフが、本学でこれまでに開発されてきた技術や実験装置などの紹介と併せて、金属表面研磨などの作業を実際に行いました。特に、装置開発室で日頃から行われている作業工程や、様々な技術におけるこれまでの苦労やノウハウなど、特別展の展示コーナーだけでは理解しにくい部分がいろいろな道具や制作作品を用いてわかりやすく紹介され、参加者には好評でした。参加者からは、非常に高度な内容の質問を含め、様々な質問が出されました。また、きれいに研磨されて鏡のようになった金属試料を何度も見たり、触れたりしながら、感嘆している参加者の姿も見られました。



一般公開の様子



## 農学国際教育協力研究センターが 2004年度第3回オープンセミナーを開催

農学国際教育協力研究センターは、7月13日（火）「マラウイの畜産振興を妨げる問題点と改善のための展望」と題して、2004年度第3回オープンセミナーを開催しました。

講師は、マラウイ大学農学部助教授のフィテロジ氏で、マラウイにおける畜産業の現状を分析し、どのように改善すべきかについて、約1時間半にわたり講演しました。マラウイの畜産部門は、農業生産活動全体の中では比較的小さなサブセクターで、GDPの7%、農業総生産の20%を占めています。しかし、200万人いる小規模農民の半分以上が何らかの畜産業に関わっており、家畜が持続的有畜農業システムを結び付ける重要な役割を担っていることは明らかです。フィテロジ氏は、これまでのドナー支援による畜産プロジェクト実施経験から、ニーズ把握のためには農民の意見を聞くこと、農民をプロジェクト形成のチームに組み入れ、彼らの情報、人的資源を有効利用できる農民主導型のアプローチが重要であると強調されました。また、元マラウイ青年海外協力隊員、用務でマラウイへ出かけたことがある教員、留学生や国際開発研究科の大学院学生などを含めて計19名の参加があり、質疑応答が活発に行われました。



オープンセミナーの様子



## 附属図書館が今年も「七夕飾り」を催す

附属図書館は、7月1日(木)から7日(水)までの1週間、中央図書館の玄関ホールにおいて「七夕飾り」を行いました。

この「七夕飾り」は、勉学に励む日々、忘れがちな歳時の中の文化・伝統に気を留めてもらい、特に留学生の人たちには、日本の年中行事の一端に触れてもらって、ささやかながらも異文化交流の場になればと、平成13年から実施しているものです。

今年も多くの学生や職員が短冊にそれぞれの想いを託し、楽しそうに竹笹に吊していました。短冊の数は昨年を大きく上回る1,400枚に及び、竹笹が今にも折れそうな状況でした。短冊には、修学、就職への願い、将来の良きパートナーとの出会い等、様々な願いがしたためられていました。

この催し物は、多くの人から支持され、定着されつつあるようです。

なお、七夕は、中国から伝来した織女星(しよくじょせい)と牽牛星(けんぎゅうせい)の星伝説、女性の手芸上達を祈る乞巧奠(きつこうでん)の行事と日本古来の行事、棚機つ女(たなばたつめ)や盂蘭盆(うらぼん)が複合されて今日に至ったとされていますが、複合の度合いも地域により異なり、その土地々々の歴史や由来があり、習俗的には意味を一言で言い表せるものではないようです。



七夕飾りの様子

## 新任部局長等の紹介



大学院経済学研究科長  
友杉 芳正  
(ともすぎ よしまさ)  
昭和17年5月11日生

### プロフィール

学位：商学博士(慶應義塾大学)  
専門分野：会計学(監査論)

### 略歴

- 昭和46年4月 名古屋商科大学専任講師(商学部)
- 昭和51年5月 名古屋商科大学助教授(商学部)
- 昭和58年4月 三重大学教授(人文学部)
- 平成7年10月 名古屋大学教授(経済学部)
- 平成12年4月 名古屋大学教授(大学院経済学研究科)
- 平成16年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員(～H16.7.31)
- 平成16年6月 名古屋大学大学院経済学研究科長事務取扱(～H16.7.31)
- 平成16年8月 名古屋大学大学院経済学研究科長(～H17.3.31)

## ● 総長の学内視察 ●

## 3 大幸キャンパス

平野総長は、7月7日（水）、医学部保健学科と大幸医療センターのある大幸キャンパスを訪れました。

総長は、古池医学部保健学科長の案内で、大幸キャンパス全体を一望できる保健学科本館の屋上から、同キャンパスが置かれている環境等について説明を受けた後、本館内の講義室、授産室と病室を模した実習室、アイソトープ実習室と実験室、看護師宿舍及び運動グラウンドを見学しました。

その後、総長、中島理事及び渡橋理事、保健学科からは、学科長、専攻長等が出席して懇談会が催され、初めに、古池学科長から、大幸キャンパスへの視察及び懇談の機会を設けていただいたことに対するお礼が述べられた後、出席者の自己紹介が行われました。

続いて、総長から、東山キャンパスから離れた大幸キャンパスの施設を見学し、現場の声を聞かせてもらいたいと思い訪問したこと、大幸キャンパスの将来構想及び教育面、環境面において改善できることは一部

でも対処していきたいこと、大幸キャンパスについては全学的な活用も考えていきたい等のあいさつがありました。

また、出席者から、「保健学科の学生（約1,000名）は、東山、鶴舞、大幸と3つのキャンパスを行き来しながらの学習で、経費面を含めて負担が大きい」、「施設は見ていただいたとおり、古い建物（第二次世界大戦前の建築）を改修して使用しているが、耐震面の心配に併せて、教室と自習室には、使いにくい、狭い等の問題がある」、「本年度設置した博士課程とともに、建物を要求しているので考慮願いたい」、「福利厚生施設も、東山キャンパスに比べると見劣りすると学生の声がある」、「保健学科は、国家試験の関係から指定学校の枠にあり、1年次から専門教育を行う必要があるので、学生等積算校費の配分等にも配慮願いたい」等の現状報告や要望が出され、これを基に、懇談が行われました。



保健学科本館4階の母子・小児看護実習室で沐浴槽と保育器の取扱いについて説明を受ける平野総長



懇談の様子

## 4 陸別観測所

### (太陽地球環境研究所附属ジオスペース研究センター)

平野総長は、7月17日(土)に全国七大学総合体育大会(七大戦)の開会式及び七国立大学総長懇談会が開催されるのを機に、7月16日(金)、太陽地球環境研究所附属ジオスペース研究センター陸別観測所を訪問しました。

陸別町は、女満別空港から約70kmの東北海道のほぼ中央に位置し、住民が約3,200名、総面積約608平方キロメートル、8割が森林で占められた自然豊かな美しい町で、日本一寒い街として知られています。また、夜空には無数の星が輝く「星空の街」として、環境省より認定されています。

当日は、女満別空港に到着後、水野陸別観測所長の案内のもと、初めに、陸別町役場において、金澤町長及び田中助役を表敬訪問し、陸別町のこれまでの協力に謝意を述べるとともに、今後とも地域貢献事業を通して相互に協力していくことなどを話し合いました。

その後、平野総長は、車で陸別観測所に移動し、観測施設を視察しました。

陸別観測所は、役場から2kmほど離れた小高い丘の上にある「りくべつ宇宙地球科学館(愛称:銀河の森天文台)」内に、宇宙・成層圏の観測研究を行うための共同観測研究スペースとして設置されています。また、りくべつ宇宙地球科学館は、平成10年に、当時日本最大級の115cm反射望遠鏡をはじめとした望遠鏡群、展示施設等を備えた公開型天文台として建設され、陸別町民のほか多くの人に利用されています。

観測所では、水野所長から、赤外線フーリエ分光器、可視分光計、高感度全天 CCD カメラ等装置の説明、太陽と地球環境(オーロラ、オゾン等)を観測するとともに、総合的なモニタリング調査を行っているとの説明がありました。

観測所に勤務する花野和生研究支援推進員からは、



懇談後、金澤陸別町長と握手をする平野総長



水野陸別観測所長から説明を受ける平野総長

「屋上に設置された露天の観測装置の維持管理（降雨、降雪時の対応）や、停電時・故障時における保守点検を行うとともに、整理整頓に心がけ、国立環境研究所地球環境研究センター職員（午前中のみ勤務）や天文台職員と協力しながら勤務しています。積雪により車の運行ができない場合には、相当きついです。山スキーを利用し、また、カラス等が屋外の観測装置を汚したりするので、その対策として、「てぐす」を使用しています」との話がありました。

また、平野総長から、大学にとって基礎研究、基礎データの収集は大事な業務であり、特に東山キャンパスから離れた場所での観測となるけれども、今後とも良いデータが得られるよう頑張ってくださいとの激励のことばがありました。



観測所を視察する平野総長

最後に、平野総長は、天文台職員から反射望遠鏡等の説明を受けた後、一路、七大戦の開会式及び七国立大学総長懇談会が開催される札幌に向かいました。



陸別観測所が設置されている「りくべつ宇宙地球科学館」(写真提供：陸別町産業振興課)



## IB 電子情報館



平成15年11月、東山キャンパス西側の四ツ谷通り沿いに、IB 電子情報館が完成しました。この建物は、世界水準の教育研究成果の確保を目指して、研究の重点化や流動的なプロジェクト型の教育・研究を支援するための施設として建設されたもので、北・南・東・西・中棟の5棟からなり、延べ面積は21,970㎡あります。

平成13年に、まず 期として地上10階・地下1階建て、面積8,803㎡の北棟が完成しました。北棟は、様々なプロジェクトに対応可能な実験・研究棟であるため、階段・エレベーター・便所等のセンターコア部分以外は固定壁を設けず、大部屋のオープンラボ形式となっています。利用者が研究テーマに応じて自由に配線・配管しやすいように、天井はボードを張らずむき出しのまま、床にはブロックごとに水とガス取り出し用のボックスが埋め込まれた構造となっています。

平成15年11月には、 期として、南・東・西・中棟ができ、IB 電子情報館全体が完成しました。

期で完成した建物のうち、南棟は地上5階建て、面積は7,071㎡の研究・実験棟で、1・2階は重量実験機器や水を使った実験に対応した実験・研究スペース、3～5階は情報関係の実験・研究に対応した二重床の仕様となっています。

東棟は地上2階建て、面積792㎡の建物で、1階にはピロティ、2階には300人収容の大講義室があります。

西棟は地上7階建て、面積3,259㎡で、2階は多目的ホール、3～5階は重量機器を対象とした実験・研究フロ



イベントテラス（中棟・屋上）



大講義室（東棟・2階）

ア、6・7階は情報関係対応フロアとなっており、プロジェクト型の実験・研究に対応しています。また、各階のリフレッシュラウンジのほか、1階には21時まで営業しているカフェ（IBカフェ）があります。

中棟は地上1階・地下1階建て、面積2,045㎡の建物で、約150㎡の講義室が1室、約100㎡の講義室が3室、約70㎡の講義室が1室あり、廊下を兼ねたプレゼンテーションスペースと、屋上には床にウッドデッキが張られ、白いテントで覆われたイベントテラスがあります。

本学では、昨年12月に地下鉄名城線・4号線が本学まで開通し、「名古屋大学駅」も出来たことにより、人通りも増え、四ツ谷通りに面したグリーンベルト周辺の景色が一変しました。今年10月には全国初の地下鉄環状運転も開始されることとなっており、ますます学外の多くの人々が本学に訪れるようになることが予想されます。地下鉄名古屋大学駅にも隣接し、外部からもアクセスしやすい本建物は、様々な講演会やイベントに多く利用され、本学の新しい顔として学内外に親しまれる施設となることが期待されます。

（施設管理部）



プレゼンテーションスペース（中棟・1階）



東山キャンパス

## INFORMATION

## 平成16年度名古屋大学職員創作美術展作品募集

毎年恒例の職員創作美術展も今年で13回目を迎えます。本年度は10月19日(火)から10月22日(金)までの4日間、シンポジオンホールにおいて開催されることになりました。

只今、職員の皆様の力作を募集しています。作品の種類も幅広く募集していますので、どうぞ奮って出品されるようお願いします。

なお、出品される方は、所属の人事担当掛を通して人事労務課厚生掛にお申し込みください。

出品の申込み期限(人事労務課厚生掛申込み期限：9月17日(金))については、所属の人事担当掛にお問い合わせ願います。

## 実施要項

## 1. 趣旨

職員自ら創作活動を楽しみ、美術作品等の鑑賞を奨励するとともに、潤いのある情操豊かな生活、余暇の一層充実した活用を促し、生活に根ざした文化の普及・高揚に資することを目的とする。

## 2. 応募資格等

本学職員とし、出品は1種別につき3点までとする。

## 3. 応募作品の範囲

絵画、絵手紙、書道、写真、彫刻、陶芸、手工芸、生け花

## 4. 展示期間等

〔期間〕平成16年10月19日(火)～10月22日(金)

〔時間〕10時～16時(ただし、10月22日(金)は15時までとする。)

## 5. 展示場所

シンポジオンホール

## 6. 作品の搬入等

(1) 作品は、10月18日(月)15時～17時の間に、出品者が展示場所に搬入すること。

なお、作品は、額等に入れ、展示できる状態で搬入すること。

(2) 作品は、美術展終了後の10月22日(金)15時～16時の間に、出品者ごとに返却する。

## 7. 企画及び運営方法

創作美術展の企画・運営は、出品者の協力を得て人事労務課で行うものとする。

## 8. その他

応募作品は無審査とし、出品者には参加賞を進呈する。

問い合わせ先  
総務企画部人事労務課厚生掛  
内線 5980



昨年度の職員創作美術展の様子

**INFORMATION**

**イベント等の開催予定一覧**

月 日	イベント	概 要	連絡先
8月24日(火)~10月14日 (木)原則火・木曜日	平成16年度名古屋大学東山地区公開講座(全15回)	テーマ:「見る」- 認知・認識への挑戦 場 所: シンポジオンホール 時 間: 18時~19時30分	研究協力・国際部社会連携課 052-789-6144
9月11日(土)~3月5日 (土)	オープンカレッジ「自由奔放!サイエンス」	目 的: 高校生に、出来るだけわかりやすく、大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意を伝えること 場 所: 文系総合館カンファレンスホール 時 間: 10時~12時 対 象: 高校生、社会人 回 数: 10回(いずれも土曜日) <a href="http://www-oc.soec.nagoya-u.ac.jp/">http://www-oc.soec.nagoya-u.ac.jp/</a>	大学院経済学研究科 エクステンション・サービス 052-788-6197
9月28日(火)	第7回高等研究院セミナー	場 所: 高等総合研究館カンファレンスホール 時 間: 17時~ 講演者: 新美智秀工学研究科教授(高等研究院流動教員)「高クヌッセン数流れのミクロスケール・アナリシス(仮題)」 講演者: 松本邦弘理学研究科教授(高等研究院流動教員)「生命現象を制御する分子 シグナルネットワーク(仮題)」	研究支援課高等研究院掛 052-788-6051
9月30日(木)	テクノ・フェア名大2004 - 智慧と創造で未来を刻む -	場 所: IB 電子情報館 プログラム ・10時~17時 研究活動展示会 ・10時15分~12時 講演会 澤木工学研究科長 「産学官連携に新たな息吹を」 福田敏男工学研究科教授 「ロボット技術の進歩と将来」 高井 治エコトピア科学研究機構教授 「超はっ水の拓く世界」 ・14時~15時30分 展示研究内容概要説明 ・13時~17時 研究室見学 <a href="http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/techno/techno2004/index.php">http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/techno/techno2004/index.php</a> (このホームページは、名古屋大学ホームページから行くことができます。)	工学部・工学研究科 総務課 052-789-3403, 3404, 3406 <a href="mailto:techno@milky.engg.nagoya-u.ac.jp">techno@milky.engg.nagoya-u.ac.jp</a>

月 日	イベント	概要	連絡先
10月13日(水)~11月12日(金)	第4回名古屋大学博物館企画展	テーマ：日本脳外科の創始者 齋藤 眞 (仮題) 場 所：博物館 開館時間：10時~16時 休館日：月・火曜日 ただし祝休日は開館 入場料：無料	博物館事務室 052 - 789 - 5767
10月26日(火)~10月27日(水)	第11回 MPS シンポジウム・複雑系科学シンポジウム	テーマ：複雑系の科学とその応用 場 所：シンポジオンホール、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー <a href="http://w3.ipl.human.nagoya-u.ac.jp/mps2004/">http://w3.ipl.human.nagoya-u.ac.jp/mps2004/</a>	北栄輔情報科学研究科助教 052 - 789 - 3521

**名古屋大学オープンカレッジ**

## 「自由奔放！サイエンス」

主催：名古屋大学経済学研究科 エクステンション・サービス  
後援：社団法人キタン会（名古屋大学経済学部同窓会）、名古屋大学全学同窓会

これから大学に入ろうとする高校生の人たちに、できるだけわかりやすく、大学の研究室で行われている最新の研究やその魅力を伝えるため、今年もオープンカレッジを開催します。学問のおもしろさを、さまざまな角度から体験していただけるものと思います。どうか奮ってご参加下さい。保護者や教育関係の方を交め、一般の社会人の方々のご参加もお待ちしております。



日 時	テーマ	講 師
2004年 9月11日	からくり人形に学ぶ ホームロボットの進むべき道	工学部 末松 良一
9月25日	愛と変身の物語 — ヨーロッパ絵画でギリシャ神話を読む	文学部 木原 元一
10月16日	物理学の役立て方とX線で探る宇宙	エレクトロニクス工学部 田原 謙
11月 6日	心は理系か文系か	経済学部 齋藤 洋典
11月20日	森と環境問題	生命科学部 竹中 千里
12月18日	法の役割と専門職	法学部 酒田 進代
2005年 1月 8日	癌の分子生物学	医学部 酒口 道成
1月22日	知識の視覚化 — 教科書の生まれた時代	教育文化学部 松下 晴彦
2月 5日	過去の太陽活動と気候変動	天文学部 増田 公明
3月 5日	日本の金融機関はどうなるのか?	経済学部 家森 信善

(時間はいずれも土曜日10:00~12:00)



場 所：名古屋大学文系総合館 7階カンパレンスホール  
(2005年1月中旬より名古屋大学経済学研究科第一講義室に本会の予定。)  
(会場変更のご案内はホームページに掲載します。下記URLを見て下さい。)

参加費：無料 (参加費は別途案内いたします。)

問合せ先：名古屋大学経済学研究科 エクステンション・サービス  
(1404-880) 名古屋大学経済学研究科  
URL: <http://www.ecs.nagoya-u.ac.jp/>  
E-mail: [ecs@extender@ecsc.nagoya-u.ac.jp](mailto:ecs@extender@ecsc.nagoya-u.ac.jp)

オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」

5th TECHNO FAIR  
NAGOYA UNIVERSITY

智慧と創造で未来を刻む



- 研究シーズ展示**  
各研究室より50ブース出展!!
- 講演会**  
工学分野を代表する3名の教授の講演!!
- 特別出展**  
からくり人形のすべてがわかる!!
- ミニ講演**

地元企業をはじめ全国の技術者及び研究者を対象に開催!! 企業のニーズに応えるシーズを紹介し、研究家を公開!!

## TECHNO FAIR 2004 9.30

10:00 ~ 17:00 入場無料

テクノ・フェア名大2004 名古屋大学 1日電子情報館

[講演会] 講演者: 齋藤洋典 (名古屋大学工学部) / 酒田進代 (名古屋大学法学部) / 酒口道成 (名古屋大学医学部) / 松下晴彦 (名古屋大学教育文化学部) / 家森信善 (名古屋大学経済学部)

主催: 名古屋大学経済学研究科 共催: 名古屋大学経済学部 / エレクトロニクス工学部 協賛: 名古屋大学 1日電子情報館  
TEL: 052-789-3521 FAX: 052-789-3524 E-mail: [techno@ecsc.nagoya-u.ac.jp](mailto:techno@ecsc.nagoya-u.ac.jp)  
URL: <http://www.ecsc.nagoya-u.ac.jp/techno/>

テクノ・フェア名大2004

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（16年7月分）

	記 事	月 日	新聞等名
1	来春の入試要項発表	7.1(木)	中日(朝刊) 朝日(朝刊)
2	国際協力の仕事をを目指す人のための就職ガイダンス 国際開発研究科で2日開催	7.1(木)	毎日(朝刊)
3	「防災研究成果普及事業」に、愛知県、名古屋市、本学の共同提案を文部科学省が採択	7.2(金)	中日(朝刊) 日刊工業
4	「ネリネの会」定例会が10日医学部附属病院で開催	7.2(金)	朝日(朝刊)
5	学生争奪国公立大戦国時代 本学では8月に横浜市と大阪市で出張説明会	7.2(金)	中日(夕刊)
6	「あいち地球温暖化防止戦略」策定検討会初会合 座長に柳下正治・環境学研究科教授	7.3(土)	中日(朝刊)
7	NPO 法人ドットジェイピー東海支部 「議員インターンシップ」の説明会を本学で開催	7.3(土)	中日(朝刊)
8	日本科学技術ジャーナリスト会議設立10周年記念シンポジウム開催 理化学研究所理事長・野依良治・本学特任教授らも参加	7.4(日)	毎日(朝刊)
9	工学部が県内の高校生を対象に「テクノフロンティアセミナー」参加者募集	7.4(日) 7.13(火)	中日(朝刊)
10	堀川浄化研究 本学など6大学連携へ	7.5(月)	朝日(朝刊)
11	野依記念物質科学研究館開所記念シンポジウム「科学 その美しきもの」8月9日豊田講堂で開催	7.5(月) 7.13(火)	中日(朝刊)
12	医学生の将来志望調査 多摩大学大学院と本学医療管理情報学講座の共同研究結果	7.5(月)	毎日(朝刊)
13	「愛・地球博」で伝統の山車からくりと先端技術のロボットが夢の競演 生田幸士・工学研究科教授も「インパクト充分」と意気込み	7.5(月)	中日(夕刊)
14	名大サロンの主役：生田幸士・工学研究科教授 柔軟な想像力が大切	7.6(火)	中日(朝刊)
15	研究室発：西田保・総合保健体育科学センター教授 子供らの学習意欲を喚起	7.6(火)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
16	日本科学未来館が「名誉館員」制度新設 理化学研究所理事長・野依良治・本学特任教授ら6名顕彰	7.6(火)	日刊工業
17	「拉致問題」について 後房雄・法学研究科教授コメント	7.6(火)	中日(朝刊)
18	「ジェンダーを科学する」出版記念シンポジウム 本学男女共同参画室など主催	7.6(火)	中日(朝刊)
19	学生街ダンス：アントレブレナーズ・カフェ 本学ほか東海地区の学生らの企画	7.6(火)	中日(朝刊)
20	ときめき時日記：外国人留学生編 本学大学院生エルムロドフ・エルドルジョンさん	7.6(火) 7.13(火)	中日(朝刊)
21	総長特別講義「名大の歴史をたどる」 青色LED開発の赤崎勇・本学名誉教授の記念館建設計画明らかに	7.7(水) 7.13(火)	読売 中日(朝刊) 日刊工業
22	参院選2004選択の条件：小野耕二・法学研究科教授のゼミ生ら 一票を問う	7.7(水)	読売
23	外国人が話す日本語サロン「唐詩をとおして和歌を見る」ゲストに趙青さん・本学国際言語文化研究科博士課程	7.7(水)	中日(朝刊)
24	老年学：井口昭久・医学系研究科教授 手帳と記憶の喪失感	7.8(木)	朝日(朝刊)
25	毎日書道展：U23毎日賞 本学卒業生・牧野絵美さん	7.8(木)	毎日(朝刊)
26	「名古屋圏広域防災ネットワーク整備・連携方策検討委員会」委員長・松尾稔・本学名誉教授)名古屋空港・名古屋港周辺に中核的防災拠点を	7.8(木)	毎日(朝刊)
27	本学など研究グループ 低熱伝導度に亜鉛原子関与発見	7.9(金)	日刊工業
28	医学の現場から：小野佳成・医学系研究科助教授 腎臓の腹腔鏡下手術	7.9(金)	中日(朝刊)
29	04参院選されど一票：小野耕二・法学研究科教授コメント	7.9(金)	朝日(朝刊)
30	本学「星の会」第10会総会と講演会を11日に開催	7.9(金)	中日(朝刊)
31	東海地方6月の地震 災害対策室・林能成助手	7.10(土)	読売

	記事	月日	新聞等名
32	医学部附属病院に入院していた アップース・アリ・アルマルキー 君、8日退院	7.10(土)	朝日(朝刊)
33	法科大学院開設記念式典 平野眞 一総長「21世紀の社会を担う優れた 法曹を送り出したい」	7.11(日)	中日(朝刊)
34	校長研究:“格付け”される学校 植田健男・教育発達科学研究科教授 「評価の数字だけが独り歩きし そう」	7.11(日)	サンケイ
35	参院選 後房雄・法学研究科教授 に聞く「民主支持」より「小泉 ノー」	7.12(月)	中日(朝刊)
36	参院選 磯部隆・法学研究科教授 コメント「もっと公約説明を」	7.12(月)	読売
37	学生街ダンス:地下鉄が大学にやっ てきた! 本学学生・丹羽亜衣さん	7.13(火)	中日(朝刊)
38	COEオープン・レクチャー開催 阿部泰郎・文学研究科教授「お水 取りのテキスト科学」の題で語る	7.14(水)	朝日(夕刊)
39	経済学研究科長・経済学部長に友 杉芳正教授を選出	7.15(木)	中日(朝刊) 読売
40	家森信善・経済学研究科教授 UFJ統合決意の影響、多方面に 地域金融再編の可能性も	7.15(木)	中日(朝刊)
41	大幸医療センターでピロリ菌の検 査・除菌治療を自由診療でスター ト	7.16(金)	中日(朝刊)
42	シンポジウム「21世紀の科学とブ ラズマ応用」ベンチャー・ビジネ ス・ラボラトリーで8月9日開催	7.16(金)	朝日(朝刊)
43	名古屋商工会議所が「産学パート ナーシップNAVI」事業始める 本学など12大学と名古屋産業科学 研究所など6機関協力	7.16(金)	中日(朝刊) 日経(朝刊)
44	天気と関節の痛みの因果関係をネ ズミで実証 佐藤純・環境医学研 究所助教授ら	7.16(金)	朝日(夕刊)
45	国際開発研究科と国際協力銀行、 海外経済協力業務で協力協定締結	7.16(金) 7.17(土) 7.19(月)	中日(朝刊) 他5社
46	肥満大敵!「茶カテキン」のすす め:葛谷雅文・医学系研究科助教 授	7.17(土)	中日(朝刊)
47	肺炎を学ぶ市民公開講座31日開催 下方薫・医学系研究科教授「医師 でもワクチンの存在知らない人が いる」と指摘	7.19(月)	朝日(朝刊)
48	私の苦笑い:理化学研究所理事長 ・野依良治・本学特任教授 予想 外でも別の価値発見	7.19(月)	日経(朝刊)
49	全国の「知的財産本部」地域ごと に成果普及 中部地区は本学がビ ジネス交流会幹事大学	7.19(月)	日刊工業

	記事	月日	新聞等名
50	本学主催「日本数学コンクール」 参加者募集	7.19(月)	中日(朝刊)
51	AC21国際フォーラムの意義・狙い :平野眞一総長に聞く「相互協 力のもとに国際レベルで評価される 人材を」	7.20(火)	中日(朝刊)
52	公開講座「見る 認知・認識への 挑戦」受講者募集	7.20(火)	中日(朝刊)
53	日本農芸化学会公開講座「見て聞 いて、触ってわかるDNA」 農学 部で8月27日開催	7.20(火) 7.28(水)	中日(朝刊) 読売
54	本学技術応用し、愛知県など行政 ・住民のための地域ハザードマッ プ作成へ	7.21(水)	毎日(朝刊)
55	シリア・フェスティバル なごや 民間大使・ナジブ・エルカシュ さん・本学大学院生がふるさとシ リアを丸ごと紹介	7.21(水)	朝日(朝刊)
56	21世紀 COE プログラム 本学の 「計算科学フロンティア」など24 大学28件採択	7.22(木) 7.23(金)	中日(朝刊) 他6社
57	「職務発明」をめぐる問題点 鈴木 将文・法学研究科教授に聞く	7.23(金)	朝日(朝刊)
58	安藤雅孝・環境学研究科教授らと 三重県 最新の観測装置で海底の 地殻変動を調査	7.23(金)	朝日(朝刊)
59	アップデート:茂登山清文・情報 科学研究科助教授 レッツ デザ イン!	7.23(金)	朝日(夕刊)
60	疑問解決モンジロー:左利きは生 活しにくい? 八田武志・環境学 研究科教授「無理に変える必要な し」	7.24(土)	朝日(朝刊)
61	国立大学、特許教育に力 本学で は取得ノウハウ指導	7.24(土)	朝日(朝刊)
62	With:きゃんばす 本学学生サー クル「震災ガーディアンズ」	7.27(火)	朝日(朝刊)
63	摩擦熱でシリンダーブロックの内 面にアルミ層を接合可能に 篠田 剛・工学研究科教授ら	7.28(水)	日刊工業
64	医学部附属病院 8月から通常勤 務で当直 国立大では初の試み	7.29(木)	中日(夕刊)
65	奥宮正哉・環境学研究科教授ら研 究 ドライミスト散布でヒートア 일랜드現象解消への取り組み	7.29(木)	毎日(夕刊)
66	昨年度の産学連携実施状況発表 本学の共同研究・受託研究実績は 479件	7.29(木)	日刊工業
67	土木学会の地球環境シンポジウム 8月2日、3日本学で開催	7.29(木) 7.30(金)	中日(夕刊) 朝日(朝刊)
68	「特色ある大学教育支援プログラ ム」58件採択 本学の「教員の自 発的な授業改善の促進・支援」など	7.31(土)	中日(朝刊) 他4社

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは総務広報課にお寄せください。

総務企画部 総務広報課 広報掛

電話：052（789）2016

FAX：052（789）2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

